

# 高須四兄弟

たかすよんきょうだい

四谷荒木町

まめ知識

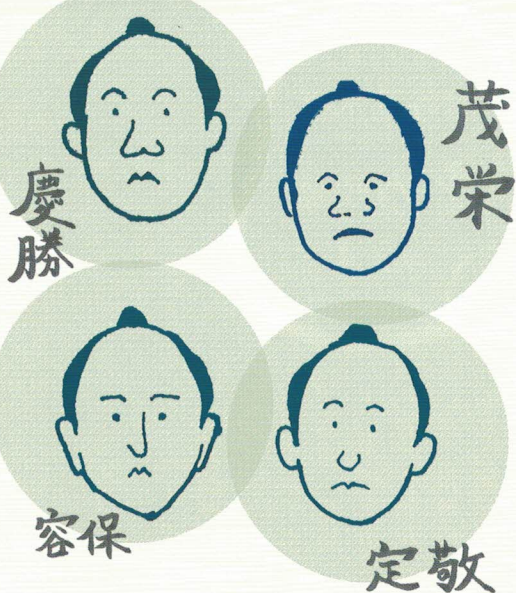
VOL.3



今回は荒木町とも所縁のあるこの四人の人生をおやぢがご紹介します。

上屋敷を荒木町に構えていた尾張藩の分家、美濃高須松平義龍の子、二男慶勝（よしかつ）、五男茂栄（もちはる）、七男容保（かたもり）、八男定敬（さだあき）の四兄弟。この兄弟、みな優秀で幕末の時代をそれぞれに活躍した。しかし、次第に時代に翻弄され激動の人生を送ることとなる。

一八四九年、慶勝が徳川本家尾張藩に養子として迎えられた。それまで押し付け養子の藩主だった尾張藩は財政が火の車。優秀な慶勝は、藩士や領民の期待に応えるべく藩政改革を進め時間をかけて負債の整理をしていった。また、海防力の強化にも力を入れていった。



やがて、日本の歴史に大きな転機

点が訪れる。一八五三年ペリー率いるアメリカ海軍が開国を迫ってきたのだ。翌年幕府は「日米和親条約」を締結。四年後には「日米修好通商条約」を大老井伊直弼が調印した。

この不意な調印に慶勝ら数名が江戸城へ押しかけ井伊を詰問した。しかし逆に処罰を受けてしまう。慶勝は尾張藩下屋敷戸山邸で謹慎生活を余儀なくされてしまった。

一方、兄弟たちはというと、それぞれに活躍しており、茂栄は慶勝の次に尾張藩主に。容保は会津松平家を継ぎ、京都守護職として新撰組を傘下に置いて活躍。定敬は桑名藩主と



定敬

尾張藩

桑名藩

会津藩

なり、京都所司代として容保とともに京都の治安をまもっていた。

謹慎中の慶勝は外国勢力が強くなり日本が混乱していく中、無念の思いを抱えながら「写真」を始め没頭していく。

当時の最先端の技術を研究し、薬品の調合からレンズのサイズまで記録していたそう。慶勝にとって写真は、西洋文明の力量を知り日本の行く末を構想する手がかりだったにちがいない。

一八六〇年三月、江戸城桜田門外

で大老井伊直弼が暗殺される。これを引きついに謹慎を解かれた慶勝。

幕府権威は次第に失墜していく。朝廷を尊び外国勢力を打ち払えという「尊皇攘夷」の思想をもつ倒幕派が台頭する。これに対し幕府は朝廷と力を合わせて国難を乗り切る「公武合体」を目指した。二つの派閥の摩擦

が激しくなる中、倒幕派長州藩との戦いに消極的な慶勝は幕府側の人々から厳しい避難をあげ

遂には幕府派、容保、定敬との間にも大きな亀裂が生じてしまう。

倒幕派は力を増し一八六七年、慶勝

を含む有力諸藩の藩主たちが集う会議によって「大政復古の大号令」が発せられる。天皇親政による新政府の樹立

が宣言され、旧幕府勢力を排除する方針が示された。そして倒幕派と旧幕府側の戦い、鳥羽・伏見の戦い（戊辰戦争）が始まる。この戦いの四日後、慶勝のもとへ新政府側の使者が訪れる。

「旧幕府勢力を助けたければ勝手にせよ。ただし以後一切取り合わない。」血を分けた弟たち、容保と定敬を窮地に追いやり、徳川を名乗りながら江戸幕府を裏切るか、このまま日本を東西

に分け血みどろの大内戦を勃発させるのか、またいかに日本をうまく開国の道に導くのか。決断を迫られる

慶勝。そして決断を下す。それは倒幕派（薩長）に付くことだった。その後の弟

たち会津藩、桑名藩の悲劇は悲惨なものだった。容保と定敬は謹慎の身となるが、一八七二年には無事二人は赦免される。茂栄が新政府と粘り強く折衝にあたった結果だった。荒れ果てた会津城を慶勝は写真におさめた記録が残されている。将来の日本のために選んだことが本当に正しかったのか、ひとり写真を眺め葛藤していたのだろう。



定敬 33歳

慶勝 55歳

茂栄 48歳

やがて四人は明治という時代をむかえる。殿様の座を降り、得意の写真を続けていた慶勝は、兄弟で集合写真を撮ることを提案。銀座の尾張藩御用達の写真館へ四人を集める。撮影後は会食の場も設けられたそう。久しぶりの再会に、どのような思いで何を語ったのだろうか。

兄弟全員が揃ったのは、後にも先にもこの時だけだったそう。価値観がすっかり変わっていった時代に生きた兄弟たち。おやぢはなんおとも感慨深い気持ちになるのだよ。